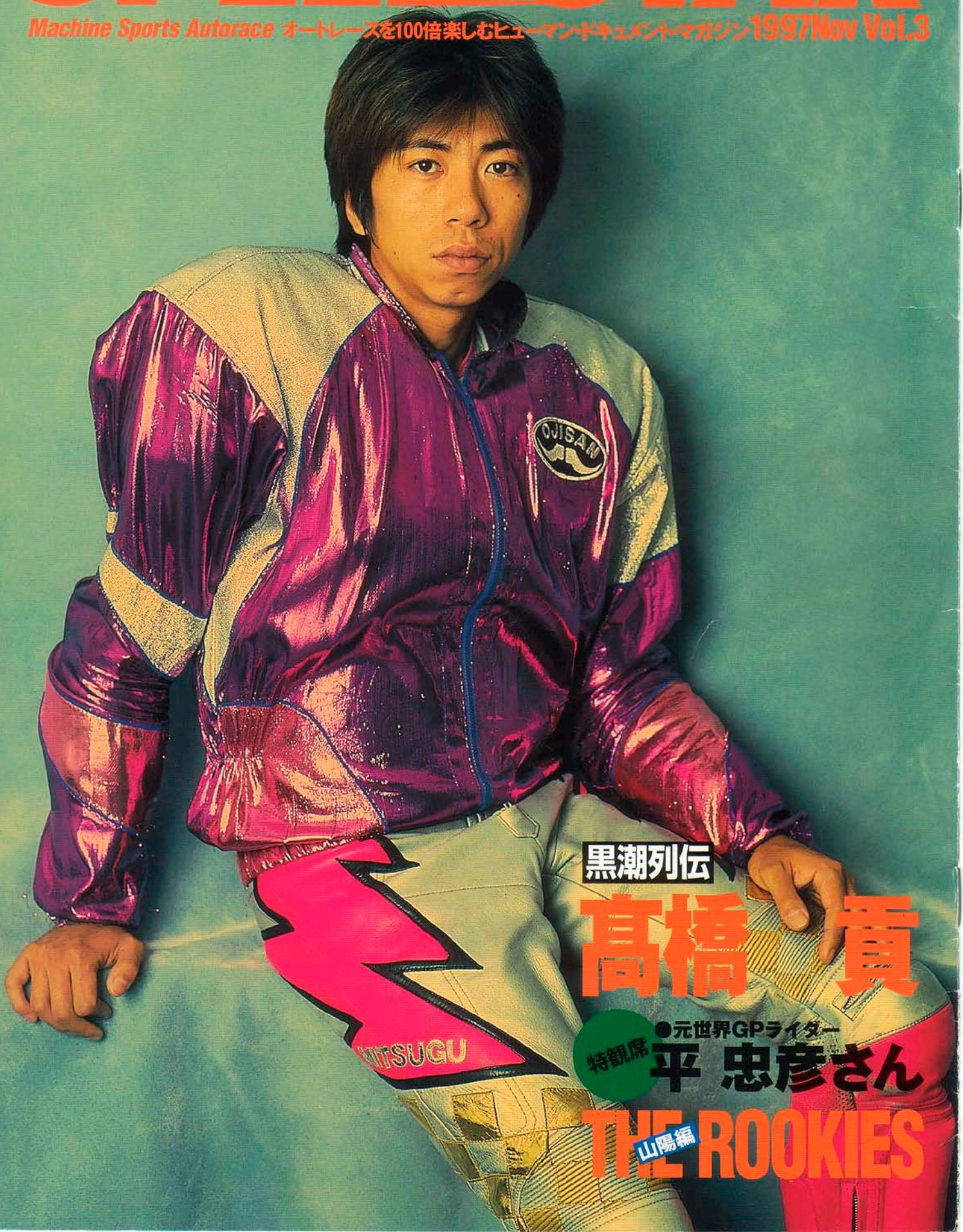


SPEED★STAR

Machine Sports Autorace オートレースを100倍楽しむヒューマンドキュメントマガジン 1997 Nov Vol.3



黒潮列伝

高橋 貢

●元世界GPライダー
特観席 平 忠彦さん

THE ROOKIES
山陽編

高橋貢

MITSUGU TAKAHASHI

貢

手元に一枚の書類がある。日動振が集計したオートレース登録選手の個人成績資料で、選手ごとにデビュー以来の入着歴や落車、反則、故障歴など各種データが記載されている。これを見ると高橋貢の9月4日現在の通算出場回数は722回、このうち1着が211回、2着が113回、3着が78回で着外は293回となっている。ということは1着の勝率がおよそ30%。連勝に絡んだのが45%。全出場回数のうち約56%以上のレースで3着までに入った計算になる。この数字が意味するものは、おそらく彼のライバルたちが最もよく理解していることだろう。この連載の第1回、創刊号の巻頭に登場した影山伸(川口22期)がインタビューの中でこう語ったことが思い出される。

「自分は知名度も実力もまだまだだけど、同期では(高橋)貢が、もう全国区でしまう。」

事実この発言の翌月、高橋はSGオールスターに優勝。その実力を全国のオートレースファンに印象づけることで、影山の評価を裏付けた。しかし高橋自身は自らの実力と立場をどう認識しているのだろうか。そんな疑問を胸に、残暑厳しい伊勢崎へと向かった。

●高橋 貢 (たかはし みつぐ)
伊勢崎オート所属・29期。昭和46年6月14日群馬県生まれ。B型の双子座。173cm、56kg。平成8年の獲得賞金総額約4,513万円。最優秀新人選手賞(平成3年)、最優秀新銃選手賞(平成6~8年)など受賞歴多数。今春の「SG第16回オールスター」でSG初制覇するなど、人気、実力、将来性で今や自他共に認める伊勢崎のトップレーサー。本年3月に結婚。

今年5月の「SG第16回オールスター」で、20期以降としては初めてSG戦を制覇。
”ホスト片平の筆頭”という声や「巧・貢時代」の到来を予言する人も少なくない。
船橋勢優位の現状を打ち破る本命として熱い期待を抱く伊勢崎の若き狼は、
そんな周囲の思惑をよそに、今日も淡々とサー・キットを駆ける。

100%の自分を ずっと出して行く。 それで勝てなきゃ、しようがない。

MITSUGU TAKAHASHI

伊勢崎オートは伊勢崎市街の北西、北に国貞忠治で有名な赤城山の山並を望む広瀬川の岸辺に広がる。場内に入るとすぐ目をひくのが林立する黒く巨大的な照明塔。オートレースでは全国唯一のナイターレース開催地でもあるのだ。取材に訪れたのは、これらの照明設備が今シーズン最後のお役目を勤める「G1モーターライトチャンピオンカップ」の前検日。高橋貢は、一年のこのレースでG1初勝利をあげている。インタービューでは最初にこれまでの6年間を振り返つての自己採点を訊いた。

「点数？ 付けようがないですね。どういう形がいいのかついでいえば、現状が一番いい形じゃないのかとは思いますが、終わることがないですからね。勝って終わりじゃないし」

SGLレースは、試験みたいなもの。普段積み重ねた努力をぶつけ合う場だ。

とはいっても、高橋は入門当時から鈴木にとって文字通りの期待の新星だったようだ。

「オートレースもやっぱり若手がすぐに勝てる世界じゃないですね。乗る方も大事だと思いますが、モータースポーツですから結局エンジンが出ないとどんなに技量があってもダメですよ。直線でエンジンを全開にして走るんだからそこで車のスピードの差が出来ますよね。どうしたらいい状態で走れるか—— それに経験しかない。それがわかっていくに連れてレース前の不安感が無くなつてきました。今、自分のレースの勝因の7割は整備が占めると思います」

確かにメカニックとしての高橋の技術力は、師匠の鈴木も認めるところだ。

「整備もスゴイですよ。巧ちゃん（片平、船橋19期）とも仲がいいんで、よくエンジンのことなんか話してるようですし、本を読んだり、職人の整備みたいなものまで勉強してるから。ただ乗ってるだけじゃないですよ」

確かにメカニックとしての高橋の技術力は、

飛び抜けてるもの。天性のものなんだろうな

たですね。ええ、いつかは（SG）を獲ると思っていました。これくらいの時期に獲つても別におかしくないと思つます。入った時から

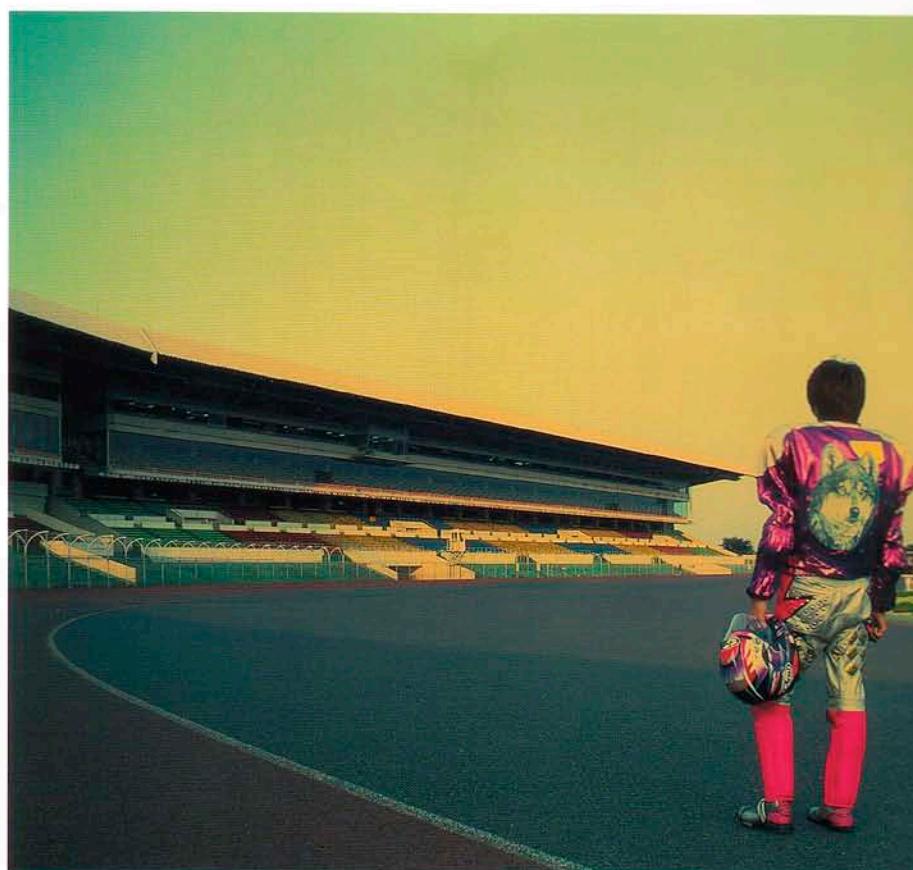
師匠からの最上級の賛辞だが、本人はSGの勝利にそれほど強くこだわっていない様子だ。

「確かにSGやG1は大事ですけど、普

モータースポーツは結局エンジン。自分の勝因の7割は整備にあると思う。

段の開催レースの試験みたいなもの。個々のレーサーが日頃いろいろやってきた結果をぶつけ合える場だと思います」

この理屈でいくと、今年の高橋はこれまで6年間の努力が実り始めたということだろう。3月の川口でのG1開設記念グランプリを手始めに5月の飯塚でのSGオールスターと、G1、SGを制覇。今年の高橋は順風満帆に見える。その強さの秘密は何だろう。



理想は”きれいな“走り。
他車の間を縫つて流れるよう
に走りたい。

では高橋が納得のいく走りとはどんなも
のか。

「一番いいのはきれいに勝つこと。他の選手
の間を縫つてゆくような、流れるような走
りが理想です。他の選手の車に引っかかる
ない、邪魔にならない、そして他人のペース
に乗らずに自分のペースで走ること。でもまあ
実際はなかなかできないですよ。きれいだと
じゃ済まないですよね、レースは」

ともかく平成9年度後期、高橋は弱冠26
歳で伊勢崎地区のA級1位にランクインさ
れた。片平・島田と並んでオートレース界
のスーパースターとなる日も遠くなさそうだ。
彼自身これからの自分の立場に対する畏れ
や不安はないのだろうか。

「昔は、もし二のまま行けばどうなるの
かなって思つたこともあるんですけど、やっぱり
トップまで行くには経験を積んでゆくわけで、
自信も自然に付いていく。先を見ると不安
もありますが、いきなり実績の無い人間を
おだて上げてチャンピオンにさせる訳ではない
ので、もしそこまで行けたときには案外
不安も無いんじゃないですか」

——と、クール過ぎるといつていいぐらい冷
静な答えが返ってくる。そんな貢に対する
ファンの声も紹介しておこう。インターネット
上でオートレースのホームページを主催す
る地元群馬のAさんの高橋評は意外に手厳しい
。「とりあえず、出場するレースではすべて
自分の力を100%出せねばいいと思つます。
たとえレースだけに120%の力を出せても、
その次が続かないでしょ。毎回100%。
120出すと100のところが弱く見えます
よね。そういうわけで、100の自分をす
つと出して行くかななど。それで勝てなきや
しょうがないでしょ。今は上に行く」とや突

発的な力を身につけるより、安定して継続
できる」とを中心と考えています。」

「向上よりも安定を望むのは、この年齢で
少し早過ぎるとも思えるが……」

「もちろん今の段階で完成しているという
わけではないですが、安定感があつて同時に

平均的にいろんな面で実力アップできれば、
いなと思います。自分の力が出せれば、そ

れが8着であつてもかまわない。ただ後悔す
るようなレースはしたくないです。負けて
も楽しければいい——という訳じゃないけど、

自分で納得のいくレースならないんじやない
かと思います」



さて、今年のムーンライトCC。Aさんご
指摘の通り、雨のせいか風邪気味だったせいか、
高橋は結局準決勝にさえ進めなかつた。し
かし、その翌週山陽オートで開催された「G
I 全国地区対抗戦」では本命の船橋勢、地
元山陽勢に混じつてこの2地区以外からは
唯一優勝戦に進出。入賞こそ逃したが伊勢
崎勢の意地を見せて地区トップレーサーと
します。オールスターでの貢は立派でしたが、
最近はスタートで行ってしまわないとちやうと…。
まだまだもろさがあります。若いのに全場
優勝してるし、スーパースター候補には間違
いないのですが、あれ? (笑)つていうレース
オートレースファンは当分目が離せそうにない。

高橋26歳。確かにまだ調子にムラのあ
るこの伊勢崎の若きエースの成長と活躍に、
しての責任を果たした。

高橋貢26歳。確かにまだ調子にムラのあ
るこの伊勢崎の若きエースの成長と活躍に、
しての責任を果たした。

一瞬のチャンスを見逃さない 切実な思いがあるか、ないか。 それが選手の成長のカギになる。



影山伸選手(川口22歳)の競走車を点検。
ライディング・ポジションの難しさに驚く。

マシンをご馳になっての感想は、「ステップをわりとか、ほとんど手作りですよね。自分のポジションに合うよう研究しているんですね。」

今日(10月5日)はこの川口オートのコース内側にある芝生からも、特別にレースを観戦させてもらつたのですが、間近で見ると車体が細かくムービング(振動)しているのがわかりました。マシンのギリギリの性能を引き出して激しく攻めないと勝てない——。オートレースはハードなスポーツだと実感しましたね。

それからもう一点、内側から見て気づいたのは、上手い選手は、立ち上がりで接地させた足を離しステップに戻すタイミングが早いこと。そのほうが加速体勢に早く入れるということでしょう。

* * *

ピットの中は、もう少しピリピリしてるかと思いましたが、案外おだやかでしたね。ロードレースだと近寄りがたいところがあつて、なかなかフランクには話ができません。もっとナーバスで、他人がオートバイに触りできないし——「俺のマシンに

近づくな」という感じで。そういう感覚はオートレースの選手にもさうあると思うんです。ただ、レースの数がたくさんあるから、そこまでシビアいくともならないんじよ。5日間の開催で、前検日を含め6日はカンヅメになるという。今日は影山選手のバイクにまたがせてもらいましたが、やっぱりちょっと申し訳ない気持ちがしました。せめて

塗装面に指紋をつけたり靴をどこかに当たる気つけました。(笑)。影山選手に限らず、各選手のロッカー前に並んでるマシンは、自分がお金を出して組み上げてるクルマなんだ!という感じが目眩然でした。本当に細かいところまで目がゆきとどいているんです。

マシンの掃除もそうだし、ナットが滑りかかつたり欠けてたりは全然ないですもの。もちろんナットがちょっと欠けてることでタイムへの影響はないんですが、細部まで大切に神経がレースをコントロールする注意力にも影響してくるわけですか

オートは特に周囲も短く、きわどい場面、ここ二発というチャンスが少ないですから、一瞬に全精力を注いでクリアしなくてはならないスポーツなんでしょうね。チャンスを絶対見逃さない。そういう気持ちで整備したり、師匠と会話をすることが大事だと思うんです。そういう気持ち、欲、速くなりたいという思いをより以上に持てる選手が伸びてくし、経験も豊富になっていくし、勝負強くなっていく。

オートレースはイコールコンディション(マシンの同一条件下)での勝負ですよね。そんな気持ちを持つてると持てないが、いずれ大きな差になって現れるのだと思いました。

らね。そういうところを感じない人は他のところにも怠慢になるし、レース展開もちょっと甘くなつてくるのです。

そのあたりの繊細さとか、エンジンの内部構造の詳しさには驚かされました。

* * *

(たいら・ただひこ)
1956年11月12日生まれ。
全日本ロードレース選手権シリーズ3連覇。'86年世界選手権サンマリージP優勝。'90年鈴鹿8耐優勝。数多のレコードを樹立した日本を代表するレーシングライダー。'92年の引退後、タイラーレーシングを設立し、カスタムバーツ製作を手がける。本年の8月にはファン・ライダーとして参戦、18位でフィニッシュした。

THE ROOKIES

出てこい、次代の
ニュー・ヒーロー!!

山陽オート・第25期生

超一流選手の走りを目の当たりにして知る。
遙かな道程。

デビュー半年の若き獅子たちは、
ふとさす不安の芽を、
強い意志の力でねじ伏せる—。

GI全国地区対抗戦の名のもとに、全国のA級レーサーが一堂に集結。9月20日から5日間にわたる激闘が繰り広げられた山陽オート。デビュー間もない25期の新人選手にはもちろん出場のチャンスはない。しかし大会に「練習参加」し、トップレーサーの走りやレース前のコンセントレーションを目撃する中で得るものは多いのだろう。激戦地・山陽でもまれている5名の新人選手たちは、遙か先にある栄光と、現在の自己の課題とをしっかりと見据えている。

●写真左より

岩崎亮一 (いわさき・りょういち)
福岡県出身。21歳。デビュー45戦にして14勝と同期の中でアタマひとつ飛び出しが、全地区に集まつたA級選手の走りには「車速がムチャクチャ違う。まだまだボクは(グリップを)アケたりない」と言う。口数が少なく同期には「冷めどる」と評されることもあるそうだが、「レースで勝った瞬間は、お金とかいらん! ゆうぐらいた気持ちいい」と瞳を輝かす。目下の目標は「独走力をあげること」だ。

福永貴史 (ふくなが・たかし)
山口県出身。23歳。「こないだ初めて準優勝戦に出たんですが、ドベでした」と屈託なく笑う。「試走も本走もガチガチでワケのわからぬうちに終わってました」と言うが、デビュー4戦目で初勝利。45戦して9勝は堂々たる成績だ。トラックの運転手を経て「何かに見てみたい」とオートの世界に飛び込んできた変わりダネは、課題は「スタートも、セッティングも、ゼンブ」と、きっと唇を噛む。

西村龍太郎 (にしむら・りゅうたろう)
山口県出身。21歳。デビュー以来すでに5度の落車を経験している。落車の直後はベテランでもおよび腰になりがちなもののだが、西村は「周りに『ひびく』とか『バイク寝ん』とか言われたくない」と攻めの姿勢に徹し、見事、落車翌日のレースでも勝利を收めている。1位でゴールに飛び込む時は「どうしゃー! やるときゃやるんじゃー」と興奮するとか。ファンに愛される選手になりそうだ。

安東久隆 (あんどう・ひさたか)
福岡県出身。20歳。当地での全地区開催に「トップレーザーは練習する量が凄いし、どんなことにも妥協せずギリギリまでやることに衝撃を受けました」と言う。また、片平巧選手の走法には「どう考えてもあれは曲がれん」ところを曲がっていく。もっともっと努力せんと自分は上にはあがれん」と痛感。「一級車に乗るまでにじっくり自信と実力をつけておきます」と決意を新たにする。

菅野澄夫 (すがの・すみお)
福岡県出身。21歳。全地区的開催直前に体調をくずし、取材当日は実家で静養していた。電話で話を聞くと、自身への歯がゆさを押し隠すように「同期に追いつきたいんです。とりあえず練習で走り明るく話す。42戦してまだ1勝。しかし「クルマを寝せてグリップを開けること」と当面の課題は明確だ。養成所の入所試験を再挑戦で突破したばかりで、先をゆく者たちを追い越すシーンを期待したい。



オートレースを支える様々なプロたちによる、ココだけのナシヨ話、ヒミツのウラ話。

オフコミ談話室

川口オートレース場
番組編成委員S氏(委員歴9年)の巻
その③

「選手の持ち味も、明日の天気予報も、番組作りの重要なファクターです」

ハンデは、選手の走法も考慮のうえ決定される。「ハンデを決めるにはもちろんタイムや最近の勝ち負けも勘案しますが、もうひとつ大切なのが“レースの流れの経験”なんですね。タイムだけでハンデをつけるわけにいかないというのは、選手の戦法に得意不得意があるからです。

例えば独走で逃げたら早い選手がいますね。その選手が、前に5、6人置いて出ると、サバキのうまいもう一人の選手も同タイムだします。じゃあこのふたりは、同じ条件かというと、そうじゃないんですね。逃げの選手とサバキ選手といつ特質があって、サバキのが不得意な選手もいるわけです。それが同ハンでは話にならない。逃げの選手は前に置かないと車券の対象にならないんですね。

そういう展開を含めて組み合わせ及びハンデを決めます。



天気予報が雨か晴れかで、番組作りも変化する。
「実は、番組をつくりながら一番頭が痛いのが、天気との“勝負”です。オートレースは好天と雨天ではまるで展開が変わってきてま

すから。雨なら雨の予報を把握し、しっかり反映させなくてはなりません。

開催中は、本当に一日に5回も6回も天気を聞くんですよ。「明日、晴れ」というならいいですが、「晴れ一時もり所によって雨」とか言われると、どれがはんとだ?と暴れたりますね(笑)。先日も準決勝の日に、その日いっぱい天気が持つ、という予報にしたがって番組を組んだのに、もう曇ぐらいから降り始めてしまいました。その時は全部200円台の配当になってしまい、売り上げもまるで伸びない。

翌日が雨だとわかれ、ある程度雨に強い選手を同一レースに固める等の工夫をして、お客様に大いに迷って楽しんでもらおうようにしています。——まあ、勝ち上がりがかかるレースではそう極端なことはできませんが、そのへんの微妙な兼ね合いを図るのも、この仕事の醍醐味ですね。

●次号からは審判部員のオフコミトークを掲載。ご期待ください。

CLIP BOARD

開催日程のお知らせ

Racing Schedule

11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
船橋		船橋(市)4														船橋(市)4							場外(市)								
川口	川口(市)4G1グランチャンピオン決定戦															川口(市)4							場外(市)								
浜松	浜松8G1秋のスピード王決定戦															浜松9							場外								
飯塚	飯塚7GII秋のスピード王決定戦															飯塚施5							場外								
山陽	電算機改修															山陽7							場外								
伊勢崎	走路等改修															伊勢崎7							伊勢崎8 SG第29回日本選手権								

Racing Schedule

12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
船橋							船橋(県)施3													船橋(県)5 SG第1回オートレースグランプリ							船橋(県)5					
川口	11/30~川口(市)施5						川口(県)5									川口(県)5							場外(市)							川口(県)5		
浜松	11/29~浜松9															浜松施3							場外							浜松9		
飯塚	11/29~飯塚7						飯塚8									飯塚8							場外							飯塚8		
山陽	11/29~山陽8GIII若獅子杯争奪戦						山陽8GIIスピード王決定戦(12R)									山陽9							場外							山陽9(12R)~1/5		
伊勢崎	11/29~伊勢崎8															伊勢崎9GII開幕記念シルクカップ争奪戦							場外							伊勢崎9		

●施=施設改善レース ●=場外発売

話題のパーフェクトTVで、オートレースSG戦の放映が開始!



「100チャンネル」をキャッチフレーズに、通信衛星(CS)による多チャンネル放送を始めた「パーフェクトTV」、216チャンネル「ヘターライフチャンネル」(無料)で長野オリンピック協賛レースを開催中全レース中継したのを皮切りに、今年度はSGレースを引き続き放送を続けていく予定です。 「パーフェクトTV」は日本全国で受信が可能ですので、このCS放送の開始によって日本中のファンが、自宅でSGレースを観戦できるようになりました。なお、受信には専用アンテナとチューナーが必要です。

●詳しくは下記にお問い合わせ下さい。
日本小型自動車振興会 情報事業推進課
TEL: 03-3503-6421

今年のSG勝者、ズラリ揃い踏み。「SG第1回オートレースグランプリ」



歌舞伎の顔見世興行や競馬の有馬記念と並んで、今年から師走の風物詩として加わるSGレースが誕生します。その名も「SGオートレースグランプリ」。今年開催された5つのSG戦(日本選手権は前年)の上位3位(東西CCは2位)までの入賞者を中心前に前年10月から年8月までの優勝戦ポイント上位選手を集めた対戦は、ファンにとってはなによりのクリスマスプレゼントです。栄えある第1回の開催地は船橋。待ち遠しいクリスマスに、さらにもうひとつ楽しみが増えました。

- 開催地: 船橋オートレース場。
- 開催日: 平成9年12月20日(土)~24日(水)
- 優勝賞金: 1,400万円

今回から新勝ち上がり方式を導入「SG第29回日本選手権オートレース」

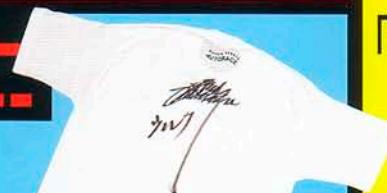


オートレース日本一を決める「SG第29回日本選手権」の開催プランが発表されました。数あるSG戦の中でも最古の歴史と最高の賞金額を誇るこのレース。今年は伊勢崎オートを舞台に11月21日より熱戦の火蓋が切れます。多くのファンのご要望にお応えして今回から成績上位選手をシードする新しい勝ち上がり方式を導入。さらに優勝賞金も2,300万円にアップして、文字通り眞のオートレース日本一の座を懸けた白熱のバトルが期待できそうです。

- 開催地: 伊勢崎オートレース場。
- 開催日: 平成9年11月21日(金)~25日(火)
- 優勝賞金: 優勝賞金2,300万円

●オートレースホームページアドレス <http://www.autorace.or.jp/>

プレゼントコーナー



本号「黒潮列伝」に登場の高橋選手のサイン入りオートレースTシャツ①、長野オリンピック協賛オートレースステッカー②をそれぞれ10名様に抽選でプレゼントします。官製はがきに、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、希望の景品の番号、オートレースまたはSPEED STARに関するご意見等を記入し、下記編集部までお送りください。締め切りは11月30日(当日消印有効)。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



①高橋選手サイン入りオートレースTシャツ
②長野オリンピック協賛オートレースステッカー